

横川 軍医 石川県

那佐 小隊長 徳島県

藤本 分隊長 愛媛県

千治松 分隊長 広島県

矢野 伍長 愛媛県

赤瀬 伍長 〃

松本 伍長 〃

鳥谷 伍長 〃

「思い出の同期」

大西 兵長 徳島県

佐藤 上等兵 愛媛県

神野亀義 上等兵 〃 (戦死)

## ビルマ撤退作戦 菊兵团従軍記

福岡県 草場 憲 輔

昭和十三年十二月十日、歩兵第二十四連隊留守隊に  
現役兵として入隊。昭和十四年三月一等兵、同年十月

上等兵勤務、十二月十日伍長勤務上等兵を命ぜられる。  
昭和十五年任官、陸軍伍長となり、同日予備役に編入  
され即日臨時召集。

昭和十六年十二月、松井連隊長以下龍部隊として編  
成出動。その後、留守部隊編成のため残留し、昭和十  
七年四月陸軍軍曹、同年四月九日、編成完了。

昭和十七年四月九日召集解除された。これは松井連  
隊長以下南方に出動したので、その留守部隊の編成の  
ため残留され、編成完了したことから召集解除されて、  
二年間自宅に帰ることになったのです。

昭和十九年二月、ニューギニア要員として歩兵第一  
四八連隊に臨時召集されたが、一ヵ月待機の後召集解  
除される。輸送船が全滅、輸送の方途が当分つかなく  
なったからである。

昭和十九年七月、久留米の歩兵第一四八連隊に応召、  
永松少尉以下五二〇名中の先任下士官として従軍。七  
月十二日門司港出帆、途中約一ヵ月を要して漸くパシ  
イ海峡を遠く望むことができたが、他の船団が敵潜水  
艦の攻撃に遭い撃沈される被害が出た。しかし幸にし

て我が船団は無事海峡を通過、サイゴン港に入港、上陸することができた。

さらにメコン河を溯江してプノンベン付近に到達することができた。制空権を喪失したので行動はすべて夜間行動の外はない。

フーコン作戦で敗走する友軍は疲労困憊して服はボロボロ、瘦せ衰え、歩くのがやっと、後方に退つて行く姿に手助けもできない。

マンダレーまでは列車輸送で、部隊を二分して進むことになり、私が一部隊の輸送指揮官として前線へ行くことになった。その時、私の世話をしてくれていた三瀧郡出身者の某二等兵が病気で倒れたので看護のために二人を付けて車に乗せ後方の病院へ送ったが、病院に到着して間もなく戦病死してしまった。二人は戦友の屍を泣く泣く茶毘に付し、その骨を抱いて原隊に帰還した。病名は日射病であった。昼は森蔭にかくれ、私は戦死した兵の遺骨を図囊や背囊に入れ、常に私の身体から離さず復員した。復員後も私はマラリアで身体が極端に衰弱しており、持ち帰った遺骨を両親に引

き取りに来て貰いました。

制空権は完全に敵の手にありますので、昼は森蔭にかくれ、夜行軍で進まなければならない。昼間一人でも見付けると敵機は機銃で掃射するという状態でした。

夜行軍で疲れて休息している所に参謀の山本少将がきて、「昼間堂々と行け、夜行軍等する必要はない」と命令したが、命令をそのまま実行すると全員戦死は間違いない、独りとして生存する者はなかったであろう。私は山本少将の命令を無視して、独断で夜行軍に決め、無事目的地に到着し責任を果たすことができました。

菊第五十六連隊の作業小隊に編入され、イラワジ河分哨に一週間勤務した後、作戦命令によって撤退した。モンミットで師団命令を受け、モゴックの警備隊に菊部隊から七名、安部隊から五名計一二名を率いて赴任することになりました。命令を受けた以上早めに出発しようと、夜間出発して山の頂上付近にきた時、モンミットは敵の空襲を受け、夜で数は分からないが爆

撃による火柱が花火のように夜空を染めていました。

危機一髪で死線をすり抜けた運命を感じました。

モゴックには十ヵ月駐留、警備をしましたが、その時の隊長は小倉少佐で、辻参謀も途中で部隊に立ち寄りられましたので、一晚泊めていろいろ話しを聞きました。

部隊では防諜の関係上、作戦漏洩を防ぐために現地人を一個所に集め、主食の米やその他の食糧を与えました。虐待等の行為があれば私も戦犯でしょうが、割合に厚遇しましたのでそのようなことはありませんでした。

その後、菊の第百十四連隊と共に後方に退りました。死の街道といわれたモチコウザンを行軍。朝出発しましたが敵の空襲を受け、私は小隊の先頭を行進していましたが最後尾を追従する小隊からは三名の戦死者が出ました。雨の中、風の中を蹠跟として夜道に足をとられながら進んで行く悲惨な状態で、時として敵の戦闘機の偵察、機銃掃射に対応しながらの撤退でした。

その後シタン作戦に参加しました。シタン河周

辺はジャングルと湿地帯で、しかも川の流れば速く、作戦行動は困難を極めました。これが、作集団の撤退作戦の援護でありました。その後ラングーンに撤退集結、武装解除、俘虜収容所入りとなりました。

昭和二十一年七月、ラングーンを出発、七月十二日大竹港に入港、上陸、召集解除となりました。思えば、菊兵団はビルマ戦でも最も苦勞し、犠牲も多かったが、私が参加したのは、進攻作戦ではなく、撤退作戦でしたので、その悲惨さをつくづく感じたわけがあります。

## ビルマの助人部隊 雲南から死の撤退

兵庫県 後藤 廣 治

―後藤さんは兵庫生まれで、ビルマ生き残りだそうですが、何師団でしたか。

私は、兵庫県水上郡和田村四谷で、大正九年一月十日四日生まれ、旧姓は中原といいました。昭和十五年徴